

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 6年2月29日

事業所名 運動療育型児童デイ クライムアップ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		部屋によって用途を使い分けしている	適切である
	2	職員の配置数は適切である	6		支援内容によって人員の増員の手配を行なっている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		活動部屋はすべてバリアフリー化している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		定期的に会議を開催し認識の共有を行なっている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者のニーズに常に注視している	保護者のニーズをさらに反映させるよう精進する
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		事務所内、ホームページに掲示している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		今後そのような機会を設けていく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		定期的に外部研修に参加している	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		作成できている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		会社内で統一されたアセスメントシートを使用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		定期ミーティングで意見を出し合っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		職員間で意見を出し合っている	保護者からのリクエストも募り取り入れていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			宿題のニーズもあるので順次取り組んでいる
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		作成できている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		指導内容に関して朝礼にて共有している	皆が意見を言い合えるような環境を整備していく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		終礼を必ず行い振り返りを行なっている	皆が意見を言い合えるような環境を整備していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		ケース記録に支援内容の記入を行い終礼時にも共有している	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的に見直しを行なっている	必要に応じて短期間内でも見直しを行う	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6				

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	担当を予め決めて円滑に議題共有を行う	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	送迎時に保護者と共有を行う	LINE等で意見の共有が円滑にしていけるよう引き続き取り組んでいく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	定期的な研修に参加している	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	就学に向けての議題など共有している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		出来て間もない事業所なので卒業生がまだいません
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	定期的な研修に参加している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	公園などで地域の子どもたちと接する機会を設けている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6		今後参加していけるよう取り組んでいく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	送迎時やLINEなどで必ず伝えている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6		家族支援の勉強会も行い活用していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	見学時に伝えている	質問があった際は即時対応できる環境を整えている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	研修で得た正しい知識を必要に応じアドバイスしている	職員の知識向上も引き続き行う
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		今後、本格的な保護者の会など開催していける環境作りを行う
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	連絡体制の確立を行なっている	迅速に対応出来ている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		定期的に発行しているが目にしやすい内容など考査していく
	35	個人情報に十分注意している	6	鍵付きロッカーにて保管している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	絵カードなど視覚的に支援していけるよう心がけている	コミュニケーションツールの増大を目指す
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		地域の方に向けた取り組みを行い周知していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	定期的に外部研修や勉強会を行なっている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	行事内容に取り入れている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	定期的に研修の機会を設けている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	万が一に必要な児童がいる場合説明と同意を行い必要最低限で行う	身体拘束について常に周知していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		保護者の申告によるものであっても根拠を提示し安全に食事ができる環境を考査していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	毎日の必要書類とし全職員と共有している	